植生史研究　第 28 巻　第 2 号 p. 77–78　　2020 年 3 月　　Jpn. J. Histor. Bot.

菊地達郎[1]：報告—日本植生史学会第 47 回談話会報告
Tatsuro Kikuchi[1]: Report—The 47th forum of the Japanese Association of Historical Botany

日本植生史学会第 47 回談話会「渥美層群と東海丘陵の湿地を巡る」が，2019 年 12 月 9 日（月）に愛知県で行われた。

当日は，7 時 50 分に JR 豊橋駅東口を出発した。バスの中，渥美半島の地質の解説を受けながら，最初の目的地である葦毛（いもう）湿原に到着した。実際に湿原を見学する前に，湿原での保全活動について，贄　元洋先生（豊橋市文化財センター）から詳しい解説を頂いた。葦毛湿原には東海丘陵要素のミカワバケイソウ，トウカイコモウセンゴケ等の植物，北方系の植物，南方系の植物が混在する特殊な湿原であり，愛知県指定天然記念物に指定されている。その多様性を保全するために，保全生態学の成果と考古学の発掘技術を融合させた，大規模植生回復作業が行われている。具体的な作業の 1 つとして，バックホーで伐根やササの根の除去，その場で根を潰して振り落とし，土に含まれている埋土種子を蒔き出すことが行われている。沢山の植物の写真を撮影した後（図 1），伊古部海岸へと向かった。

図 1　葦毛湿原でみたトウカイコモウセンゴケ.

快晴の空の下，サーファーを横目に伊古部海岸に到着した。ここでは，渥美層群中部にあたる田原層最下部の伊古部礫部層から順に赤沢泥部層，豊島砂礫部層が累重する様相を観察した（図 2）。赤沢泥部層下部の At-3 テフラは兵庫県の六甲山系の高塚山テフラに対比されており，その年代値から MIS 11 にあたる約 40 万年前の堆積物と推定されている。数多くの貝化石や植物化石が報告されており，当日も矢部　淳先生（国立科学博物館）が比較的保存状態のよいフジだと思われる葉の化石を発見された。次の目的地の久美原の海岸では，田原層赤沢泥部層と豊島砂礫部層を観察した。この産地の赤沢泥部層の中には東から西に大きく斜交した礫層が見られるが，これは入江にたまった内湾の泥とその河口を塞ぐように発達した礫嘴の堆積物と解釈されている。護岸工事のため At-3 テフラを観察することはできなかった。海岸にいる機会を利用し，藤井伸二先生（人間環境大）が海岸のシバの解説をしてくださった。オニシバは自然度の高い海岸を好み，雌性先熟することが特徴と伺った。ぽかぽか陽気の海岸を後に，昼食をとるため，めっくんはうすへ移動した。

贅沢な昼食後は，再び湿地の見学を行った。まず，黒河湿地へ向かった。この湿地では植物の分布上，南限であるヤチヤナギが生育し，東海丘陵要素のシラタマホシクサや，サクラバハンノキ，シデコブシなどが見られることが特徴であり，愛知県の「植物群落」としての天然記念物指定の第 1 号となっている。木道から，湿原の周縁に群生してい

図 2　伊古部海岸の渥美層群田原層の露頭.

©2020 Japanese Association of Historical Botany

るシデコブシが観察された（図 3）。シデコブシは枝分かれするものから直立するものまであるらしい。次に，藤七原湿地を見学した。この湿地は衣笠山の東北斜面に成立した広い湿地で，チャートの礫が堆積し，そこにシデコブシ群落中心の低木林が成立している。ヒメユズリハ群落や，ウバメガシ群落等も観察された。ウバメガシがたくさんのドングリをつけていた。筆者はその少し不格好のドングリを初めて見た。湿原の見学を終えた後は,転がっているチャートの礫を打ち合わせて，火花を起こすことを試みたが，上手くいかなかった。

少し日が傾き，時間もなくなってくる中，蔵王山展望台へ移動した。まず，展望台の下で集合写真を撮った（図 4）。展望台からは今まで回ってきた場所を一望することができた。そして，すぐに本巡検最終目的地である吉胡（よしご）貝塚史跡公園へと急いだ。この貝塚は，縄文時代後期・晩期を中心とした日本を代表する貝塚遺跡のひとつで，これまでに 340 体の縄文人骨が出土し，考古学・人類学の研究に大いに貢献した。この公園の特徴は発掘調査で露出した最も古い貝塚をそのままの状態で展示していることである。貝のほか，動物の骨や，土器などの破片を発掘したままの状態で見学することができた（図 5）。

図 3　黒河湿地に群生するシデコブシ.

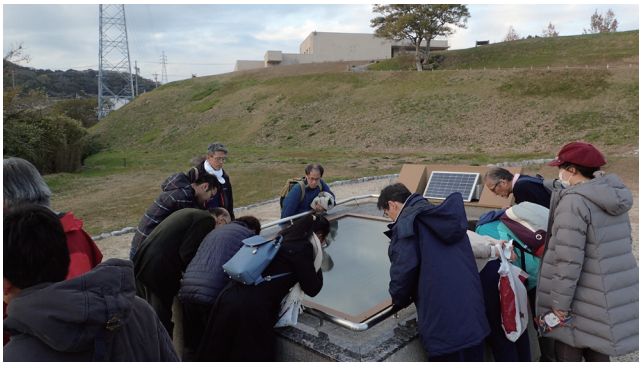

図 5　興味津々に吉胡貝塚の出土状態を見学する参加者達.

当日は大変寒くなることが予想されていたが，天気が良すぎるくらいの中，色々なポイントを回ることができ，東海丘陵要素の成り立ちや保全に関する知見を得た。末筆ではございますが，今回の談話会を計画し，準備して頂きました吉川博章先生・松岡敬二先生（豊橋市自然史博物館），贄　元洋先生（豊橋市文化財センター），那須浩郎先生（岡山理科大）に深く感謝いたします。

([1] 〒 271-8510　千葉県松戸市松戸 648　千葉大学園芸学部緑地環境学科)

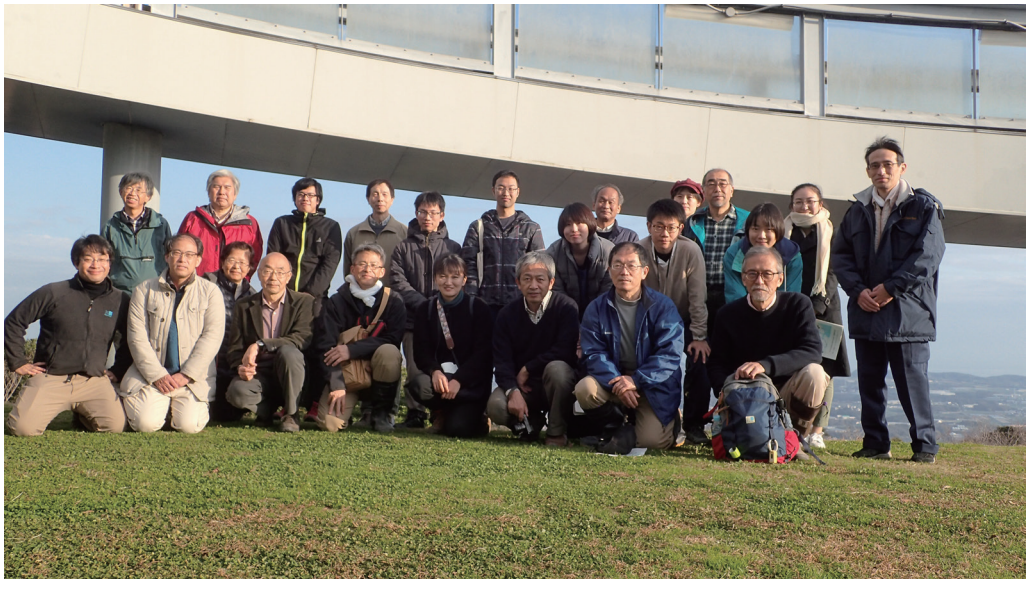

図 4　蔵王山展望台での集合写真（撮影：那須浩郎氏）.